悪性妬みはいじめを助長するのか？

—妬みのサブタイプ理論に基づく検討—

○澤田匡人¹ 金網知征² 鈴木雅之³

(宇都宮大学¹ 甲子園大学² 横浜国立大学³)

Key words: 妬み, サブタイプ理論, いじめ加担

目 的

教育現場において、いじめ撲滅を目指したスローガンとして「自尊感情の向上」が掲げられることが少なくない。自尊感情さえ高めれば、いじめを未然に防げるとの見方である。たしかに、自尊感情を低下させる要因にいじめ被害を挙げる研究は散見される(e.g., 水谷・雨宮, 2015)。しかし、いじめ加害については、むしろ自尊感情の高さとの関連性も指摘されている(Gendron, Williams, & Guerra, 2011; 本間, 2003)。例えば、Gendron et al. (2011)は、子どもが認知する学校風土の良し悪しによって、自尊感情がいじめ加害を抑制するだけではなく、促進する場合もあることを明らかにしている。

自尊感情と同様に、ネガティブな対人行動を引き起こす要因に妬み感情が挙げられる(土居・渡部, 1995; 澤田, 2010)。近年、妬みに良性と悪性を想定するサブタイプ理論に基づく検討が進んでいる(e.g., Lange & Crusius, 2015)。例えば、良性妬みには、拡散的思考を要する作業の継続(Van de Ven, Zeelenberg & Pieters, 2011)や学業成績の向上(澤田・藤井, 2016)といったポジティブな効果があるとの報告がある。その一方で、敵意的な成分の色濃い妬み、いわゆる悪性妬みは、子どもの攻撃行動(澤田, 2006)や、職場におけるハラスメント(Kim & Glomb, 2014)との関連が指摘されており、いじめの助長や加担にも関与していると予測できる。

いじめを左右する要因とみなされる自尊感情は、良性妬みと悪性妬みとは、それぞれ正反対の相関を示すという(Lange & Crusius, 2015; 藤井・澤田, 2016)。そのため、自尊感情によるいじめ加担への影響関係については、妬みのサブタイプが媒介している可能性が想定される。また、こうした妬みによるいじめ助長を考慮する上で、彼らが所属している集団の特徴を踏まえた検討も求められる。

そこで本研究では、いじめの初発ではなく、既に発生したいじめへの加担に焦点を当てて、以下の仮説を検討する。
仮説 1: 自尊感情は、それ自体がいじめを助長するものではなく、妬みを媒介する。ただし、妬みのサブタイプ理論から、間接効果は良性妬みではなく悪性妬みのみに認められる。
仮説 2: 悪性妬みがいじめを助長するのであれば、その影響関係は学級集団の影響を受ける。すなわち、いじめに参加する友人が多い学級ほど、悪性妬みがいじめ加担を促進する。

方 法

参加者 栃木県内の公立中学校に通う1年生から3年生までの生徒965名(男子499名、女子466名)が調査に参加した。そのうち、回答に不備のある44名を除いた921名を分析対象とした(男子471名、女子450名)。平均年齢は13.51歳($SD = 0.96$)であった。

質問紙 1. 日本語版 BeMaS (澤田・藤井, 2016) 10 項目・6 件法。2. 妬み傾向 (澤田・新井, 2002) 8 項目・5 件法。3. 自尊感情 (桜井, 2000) 10 項目・4 件法。4. いじめ加害に与

する友人数 2 項目・4 件法 (1: だれもない—4: 4 人以上)。
5. 現在の学級になってからのいじめ加担の有無 (Kanetsuna & Sawada, 2015) 4 項目・2 件法 (0: ない—1: ある)。

結 果

日本語版 BeMaS の 10 項目について確認的因子分析を行った結果、1 因子モデルよりも 2 因子モデルの方がデータとの当てはまりが良好であった。また、先行研究と同様に、良性妬みは自尊感情と正の相関 ($r = .37, p < .01$)、悪性妬みは自尊感情と負の相関 ($r = -.26, p < .01$)、妬み傾向とは正の相関 ($r = .56, p < .01$) がそれぞれ有意であった。

学年と性別を統制して、自尊感情が2つの妬みを媒介していじめ加担をもたらすかについて、構造方程式モデリングによって検討した結果を図1に示す。ブートストラップ法によって間接効果の検定を行った結果、悪性妬みを媒介した間接効果は有意であったが ($b^* = -.09$; 95% CI $[-.12, -.06]$)、良性妬みを媒介した間接効果は有意でなかった ($b^* = -.03$; 95% CI $[-.05, .00]$)。

注) 値は標準化係数を示す。

() 中の値は、良性妬みと悪性妬みを統制前の自尊感情の直接効果。

** $p < .01$

図1 自尊感情からいじめ加担の良性・悪性妬みの媒介効果

いじめ加担と悪性妬みの関連が、学級レベルのいじめに与する友人数に調整されるかを検討するために、階層線形モデルによって分析した。性別と学年、自尊心を統制して解析した結果、いじめをする友人が多い学級に所属しているほど、いじめに加担する傾向にあった ($\hat{\gamma}_{01} = 0.38, p < .01$)。また、悪性妬みの効果が有意であった ($\hat{\gamma}_{70} = .06, p < .01$) が、悪性妬みからいじめ加担に至る係数は、所属学級の違いに関係なく一定であることが示唆された ($\hat{\gamma}_{71} = 0.01, p = .52$)。

考 察

日本語版 BeMaS を中学生に適用した調査を通じて、自尊感情といじめ加担の関係を、悪性妬みが媒介することが明らかとなり、サブタイプ理論を用いた研究の有効性が示された。しかし、悪性妬みからいじめ加担への影響関係は、いじめ加害に与する友人の多さを指標とした学級の調整を受けていなかった。今後は、悪性妬みが行動化しやすい集団やその背景にある文化的要因を洗い出す必要がある。

(Masato SAWADA, Tomoyuki KANETSUNA, Masayuki SUZUKI)

本研究の一部は科研費(基盤C, #26380867)の助成を受けた。